

「リョウマ伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に向う。という気持ちでお届けしています。



# リョウマ伝

46号

2023年9月26日  
高野 竜馬

## 「平和の火」

「平和の火」  
プールにキャンプにと今年もチ  
ーナな夏も子ども達と堪能した  
高野です。皆さんも遊び疲れ  
て夏バテを引きずりませんか  
そんな楽しい夏の一番の思い出  
出は？と聞かれると星野村  
の「平和の火」でしょうか。  
星野村キャンプ場での夕食時、  
息子が地図を見ながら「お父  
さん、平和の塔、何？？」と  
聞いてきました。「知らん  
何やろ？明日行ってみよ」  
行ってみると、そこは山間の広  
場に三角形の記念碑がある  
だけ。それが平和の塔で、その  
て、へんに火が灯っています。  
それを「平和の火」と言うのだ  
そうです。私は、その由来を  
ネットで調べて愕然としまし  
た。

その火は星野村出身の山本  
達雄さんが、原爆投下後の広  
島から持ち帰り、たもので、そ  
れが今も燃え続けているので、  
1945年、兵士として、広島に  
入った山本さんは市内で書店  
を営む叔父さんの安否を心配  
しました。この叔父さんはかつ  
て、幼くして父親を亡くした山  
本さんを我が子同様に育てて  
くれた人です。  
結局、叔父さんは見つからず  
山本さんは書店に立ちすくみ  
まだくすぶり続ける火を見つ  
めながら、「せめてこの残り火を  
叔父さんの遺骨代わりに持つ  
て帰ろう」と決意します。  
お守り代わりに持ち歩いてい  
たカイロにその火を移し、星  
野村まで大切に持ち帰りま  
した。その火は仏壇や火鉢に

移され、20年以上もの間、山本家  
でひっそりと守られていたのだ  
そうです。  
戦後20年以上の月日が流れ  
た1966年のある日。夏も近  
いというのに、まだ家族がこた  
つに火をいれているのを、その  
時たまたまあ茶の取材で  
山本さん宅を訪れていた新聞記  
者が不審に思っ、て尋ねます。  
そして戦争の話を引きかけに山  
本さんは、その記者に対し、その  
火の経緯を話したといっています。  
これが「平和の火」が初めて世  
に知られるキッカケでした。  
当初は「恨みの火」「復讐の火」と  
して火鉢やこたつに、ひそかに  
保存していたそうです。また  
一時は苦しい胸中の思いを晴  
らすため、ハワイ上空で火を消  
そうと考えたこともあったそ  
うです。  
しかし、「報復では永久に平和  
は来ない」と考えを改め、昨年、  
星野村役場に提供します。  
以来、村が「平和の火」として

保存しているのだそうです。  
ロシアがウチャウチャや、でも  
どこかピンとこない平和ボケ  
の私。  
でも、星野村で燃え続けるこ  
の原爆の火の存在を知ると  
こんな私でも平和の尊さを  
知ります。

戦争なんて想像も出来ない  
美しい山里だからこそ、この  
火は本当に大切なものを、  
教えてくれます。  
平和を祈って、火を遺し続け  
た山本さんの遺志を繋いで  
いかなければなら  
ません。



たかの財形事務所  
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13  
☎090-3407-2123  
<https://www.takanozaikai.com> メール [fp.takano@gmail.com](mailto:fp.takano@gmail.com)